

# 衛氣の鍼 宮氣の鍼

日本中医鍼灸研究会 設立記念大会

鍼道五経会 代表

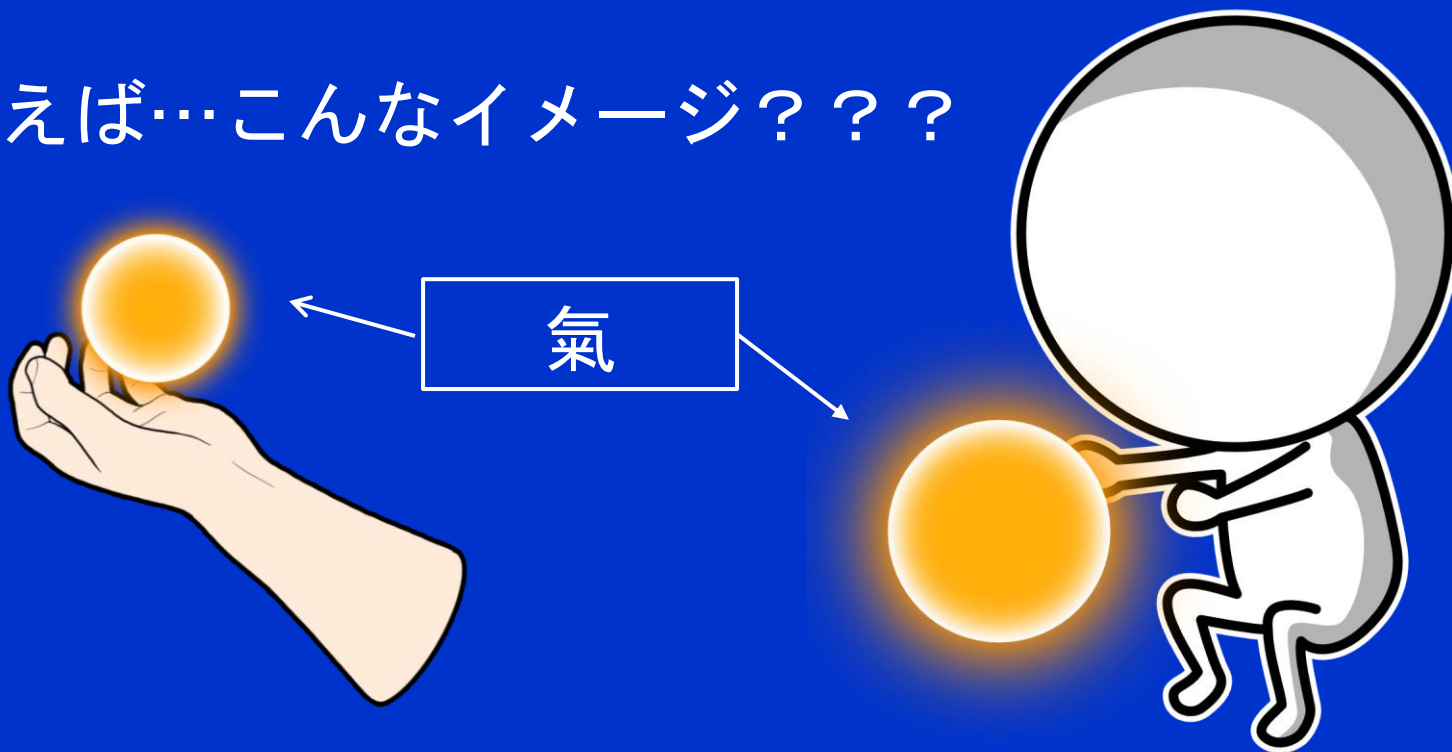
日本中医鍼灸研究会 理事

足立繁久

# 鍼と氣は密接な関係にある

しかし、鍼を扱う私たち鍼灸師は  
“氣”のことをどれくらい理解しているだろうか？

たとえば…こんなイメージ????



# まずは生理学の“氣”から

鍼を扱う鍼灸師だからこそ

中医学（とくに生理学）における  
“氣”について整理しておきたい！

人体を流れる“氣”を理解することで  
自信をもって鍼治療を行うことができる

# 素朴な疑問（問題提議）

Q. 1 経脈と絡脈の違いは？

Q. 2 鍼灸師が扱う三つの氣  
衛氣 営氣 ○氣 ???

Q. 3 営氣と衛氣、それぞれの特徴は？

# 素朴な疑問（問題提議）

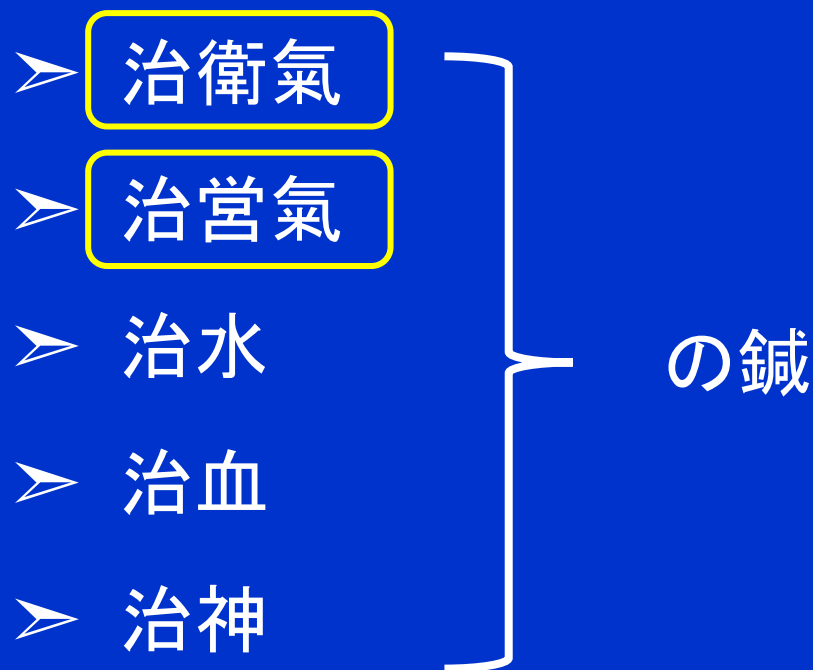
Q. 4 覚えていますか？ 経脈の流注

Q. 5 如環無端という言葉… そのココロは？

衛氣・営氣を扱う鍼灸師ならば理解すべきこと

# 鍼道五経会の流儀

- “鍼道五経” の意味



# 鍼道五経会の流儀

- 鍼道五経をわかりやすく言い換えると

- ➡ 衛氣タイプの鍼灸師

- ➡ 営氣タイプの鍼灸師

- ➡ 治水タイプの鍼灸師

- ➡ 治血タイプの鍼灸師

# 術者の個性が鍼にあらわれる

- 鍼には“一つ”という正解はない

「繊細な鍼」と「響かせる鍼」

「遠隔に鍼」と「局所に鍼」

「少数鍼」と「多数鍼」

- ☞ 鍼の多様性の理由として  
「治衛氣」「治宮氣」「治水」「治血」…  
といった術理の違いを提唱する。



# タイプによって異なる味わい



タイプによって味わいが変わるお酒のように

タイプに応じた鍼の利かせ方があるようです



# 陰陽で分類すると

- 氣血を陰陽で区分すると



氣 = 陽  
血 = 陰

「陽は氣に化し、陰は形と成る」  
『素問』陰陽応象大論

陽 = 無形の存在  
陰 = 有形の存在

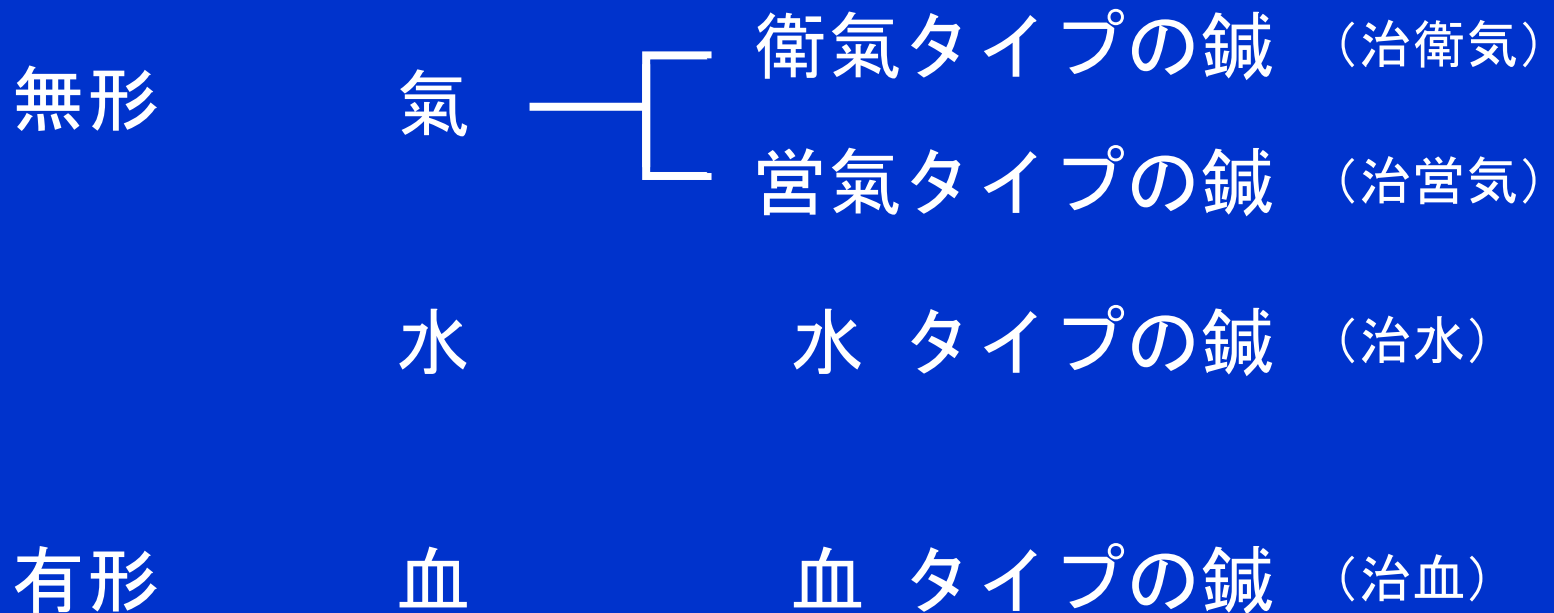
# “氣”を陰陽でさらに分類

- 無形に分類された“氣”にも陰陽分類ができる



# “氣”を陰陽でさらに分類

- 無形に分類された“氣”にも陰陽分類ができる



# 衛氣タイプの鍼

- 治衛氣の鍼、その特徴

- 繊細な鍼刺激
- 浅層鍼 または 接触鍼
- 少数鍼
- 鍼の効果・症状の変化が早い

衛氣の性質に基づいた鍼法となる

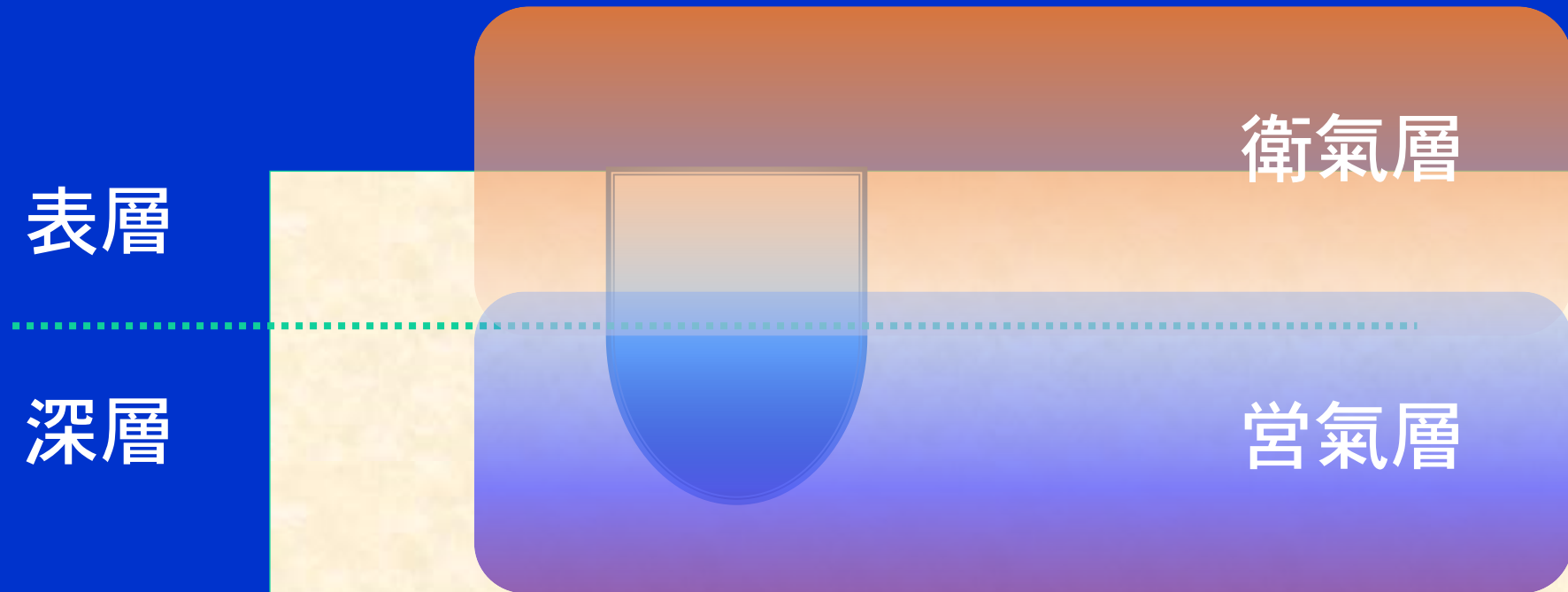
# 宮氣タイプの鍼

- 治宮氣の鍼、その特徴
  - 治衛氣に比べるとやや深い層
  - 毫鍼を多用
  - 時間を利用する（置鍼など）

宮氣の性質に基づいた鍼法となる

# 衛氣營氣をビジュアル化すると

- 複数層からなる氣の構造



# 衛氣の性質とは？

- 衛氣は陽中の陽。陽の性質を強くもつ
  - ✓ 氣の動きが早い
  - ✓ 制限が少ない
  - ✓ 表層を流れる氣

水穀の悍氣

剽疾滑利

脈外を行く



# 営氣の性質とは？

- 営氣は陽中の陰。陰の性質をやや帯びる
  - ✓ 一定の速度で流れる
  - ✓ 経脈の中を流れる
  - ✓ 表層のやや深い層

水穀の精氣

営在脈内

臟腑に属絡

# 衛氣タイプの鍼灸師の特徴

- 術者のパフォーマンスも衛氣の影響を受ける
  - 繊細なタッチ（緻密な切診）
  - 広い射程範囲（遠距離タイプ）
  - 望診・聞診なども駆使

臨床スタイル

主導権を把握・声を通る・印象派

# 営気タイプの鍼灸師の特徴

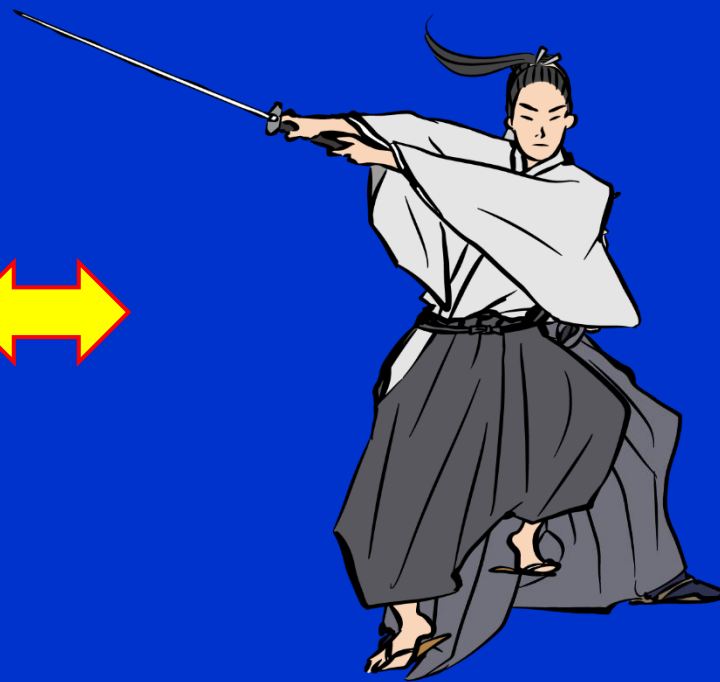
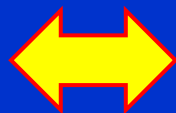
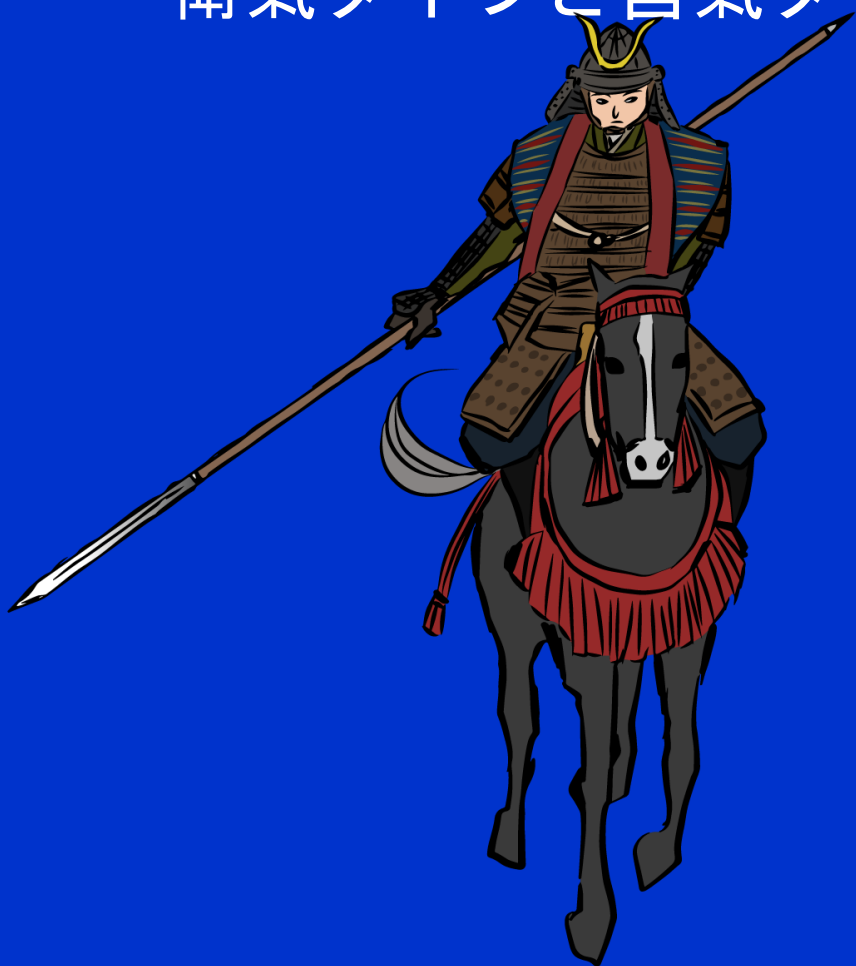
- 術者のパフォーマンスも営気の影響を受ける
  - 経穴をより多層構造にとらえる
  - ゆったりとした時間感覚
  - 脈診が主体

臨床スタイル

後の先をとる・傾聴する・柔らかなタイプ

# 守備範囲で比べると

- 衛氣タイプと営氣タイプを比べると分かりやすい



# もっと具体的に衛氣タイプ

- ・衛氣タイプの鍼灸師は、射程範囲が広い

相手との距離感（間合い・空間）を掌握

- ・視覚（服装・身だしなみ・表情…）
- ・聴覚（声質・BGM）
- ・嗅覚（お香やアロマ・艾の質）……などなど

無形の要素に気を配る

# もっと具体的に営気タイプ

- ・ 営気タイプの鍼灸師は、守備範囲が段階的

患者さんとの距離（間合い）の詰め方が慎重

- ・ 醸し出す雰囲気  
    柔和な態度  
    丁寧な言葉づかい  
    やわらかい表情
- ・ 慎重に間を詰める

複層段階でのアプローチ・触れ方

# ここまでの話

- 衛氣と營氣の知識を整理することで…
  - ✓ 衛氣と營氣の性質の違い
  - ✓ 營衛の性質が鍼法に影響する
  - ✓ タイプ別の臨床パフォーマンス

生理学が、実は治療や行動にもつながる

# 実際のところ…

- 実際には各タイプにはっきり分かれるのではない
  - 複数タイプの特徴を併せもつ治療家が多い
  - 個々によりその配分や傾向が異なる
- バランスよく備えることが大事
- 状況に適した使い分けが大事

(鍼道五経会 調べ)



# ここからは営氣が主役です

- 経絡・営衛の理解が鍼術を向上させる

- ✓ 営氣とは経脈を流れる氣である

- ✓ 営氣と経脈と呼吸の関係を理解する

- ☞ 『素問』 『靈枢』 『難経』 に記される生理学

# 鍼と営氣の関係

- 営氣って、どんな氣？

経脈内を流れる氣  
(衛氣層よりも深い層)

経脈内の流行には規則性をもつ

規則性とは時間に基づくものである

# 営氣のトリセツ・その1

- 『素問』 『靈枢』 『難経』 『傷寒論』 にある営氣の性質

「営氣は脈内を行り 衛氣は脈外を行く」 (靈枢 営衛生会篇)

※同様の趣旨は『素問』 痺論篇 『靈枢』 邪客篇・本藏篇  
『難経』 三十難 『傷寒論』 太陽病上編にあり

経脈と営衛の関係を明示

# 營氣のトリセツ・その2

- ・ 營氣の特徴は「経脈に関わる」「規則性をもつ」

營氣は水穀の精氣なり。

五臓に於いて和し調え、六府に於いては陳を灑す。

すなわち脈に入ること能うなり。

故に脈の上下を循り、五臓を貫き、六府に絡うなり。

『素問』 痺論篇第四十三

# 営氣のトリセツ・その3

- 『素問』 『靈樞』 『難経』 に記される営氣の性質

人の一呼に脈再動す、氣行くこと三寸、  
一吸に脈また再動す、氣行くこと三寸、  
呼吸定息で氣行くこと六寸。

※『素問』 平人氣象論 『靈樞』 五十營  
『難経』 一難にほぼ同様の記述あり

息数と脈数と脈行の關係を示す

# 営氣のトリセツ・その4

- 営氣は「時間」と「距離」に密接な関係にある

## 距離的な目安とは脈行

人体の経脈（二十八脈）の長さは16.2丈（十六丈二尺）  
一日で50周  $16.2 \times 50 = 八百一十丈$

## 時間的な目安とは息数

人は一日（24時間・百刻）で13500回呼吸する（理論上）

呼吸の重要性は『素問』平人氣象論にても指摘される  
「醫不病、故為病人平息、以調之為法。」

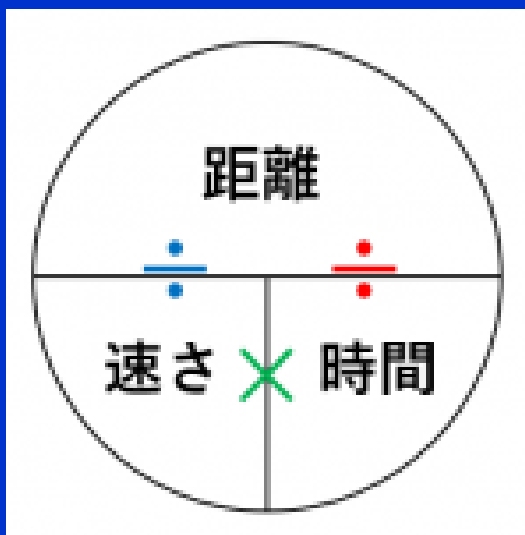
# 営氣のトリセツ・その4'

- ・ 営氣は「時間」と「距離」に密接な関係にある

	その距離…16.2丈
営氣が人体を一周するとき…	その息数…270回
	その時間…2刻（28.8分）
	その距離…6寸
最小単位にすると…	その息数…1回（呼吸定息）
	その時間…6.4秒

# 宮氣のトリセツ・その5

- 距離と時間が定められているということは…？



「具体例で学ぶ数学」より引用

一定の速さを求めることができる。

距離と時間が決定すると**速さ**が導き出される

【 $d \div t = v$ （距離 ÷ 時間 = 速度）】



# 営氣のトリセツ・その6

- 時間と営氣の関係を知ると置鍼の意味も変わる

一回の呼吸で脈行（営氣行）**六**寸、脈数**五**至  
人体一周（二十八脈）は16.2丈（1620寸）  
 $1620 \div 6 = 270$ （270回の呼吸で一周する）

※ 平脈を五至とするのは『素問』平人氣象論に準ずる

**五**と**六**の数字が脈行と脈数の関係にも！

# 時間とは法則性

- 五と六が脈行・脈数の関係にもみられる

五と六は**天地の運行**を表す数字  
干支（天干地支）である。

天地の気の運行は規則性と循環を意味する  
すなわち暦であり、時間である

『内経』に天干地支が用いられている意は  
天地（自然）を通じ人体の法則性を追窮する姿勢

 自然科学と同じ観点

# 数字とは天地の理を示す

- “五十” という数（大衍の数）

“五十” と營氣の關係は  
『靈樞』五十營に詳解されている。

経脈の総距離 → 十六丈二尺（16丈2尺）  
一日で五十周 → 八百十丈（810丈）

五十營にして備り、天地の壽を盡すことを得る。  
凡そ八百一十丈を行く也。

『靈樞』五十營より

# 五十周とは人体の生理を示す

- “五十” という数（大衍の数）

営氣と衛氣はともに、人体を五十周する。

営氣が五十周するルートが二十八脈

二十八脈とは、手足十二正経・督脈・任脈

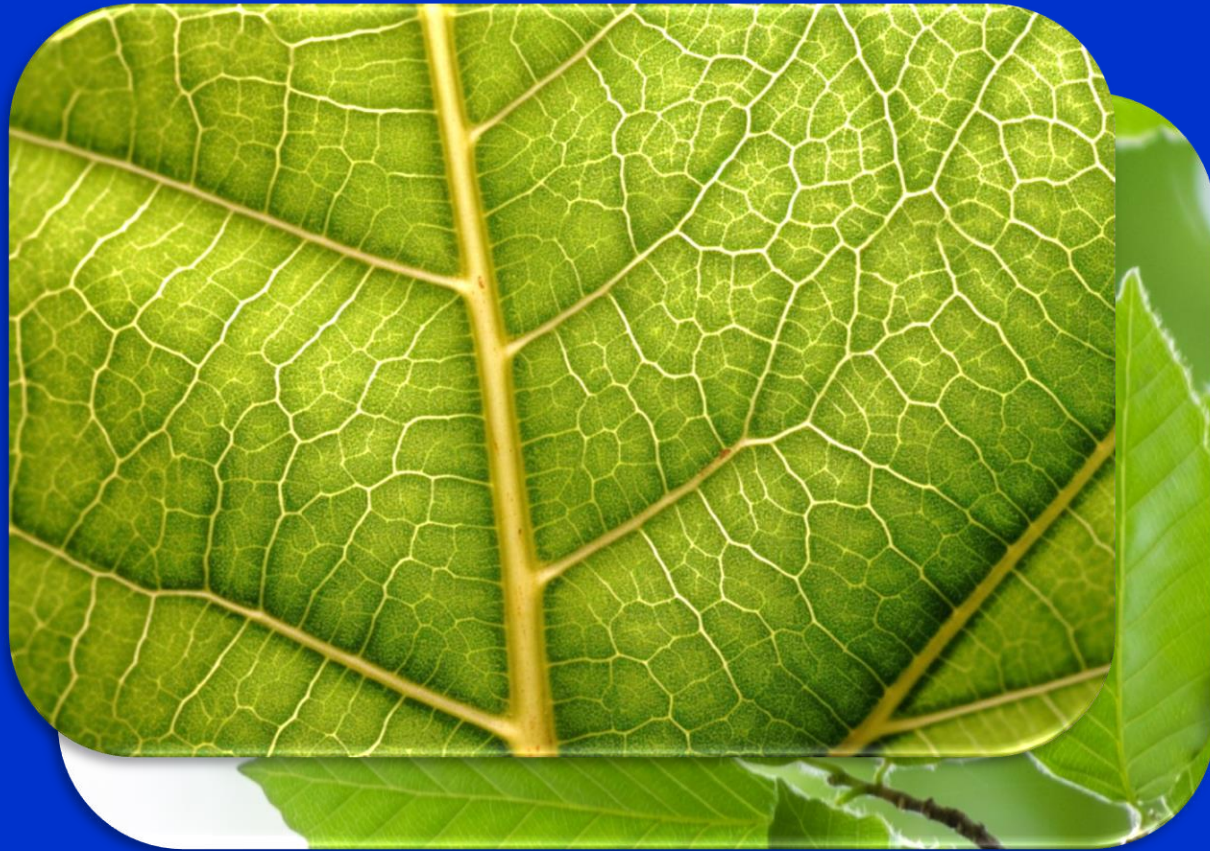
そして 陰蹻脈または陽蹻脈

『靈枢』脈度より

この観点から経脈と絡脈の違いをみてみよう

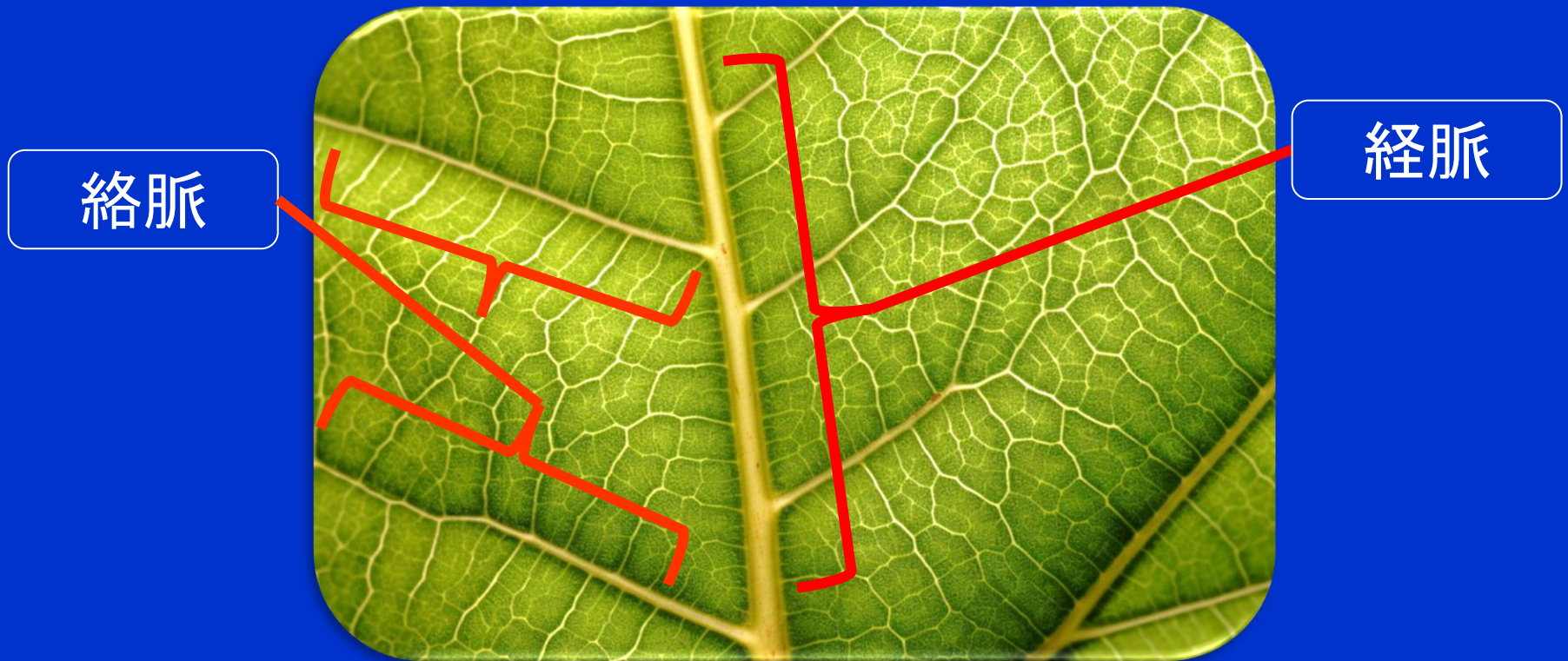
# 経脈と絡脈の違いとは？

- 経と絡の違いを葉っぱに譬えると…



# 経脈と絡脈の違いとは？

- 経と絡の違いを葉っぱに譬えると…



これは構造物としての経と絡の違い

# 経脈と絡脈の決定的な違い

- 流れる“氣の違い”から経と絡を区別すると

營氣とは“脈内を行く氣”である

その距離と時間は規定されている

総称して「二十八脈」という

すなわち、營氣が流れる脈が“経”とみる

以上のこと踏まえて経脈流注を見直すと…

# 経脈流注の認識を改めるべき

- 始まりは手太陰肺経 終わりは足厥陰肝経？？？

一般的には「肺経～肝経」の流れ

「如環無端」との言葉に譬えられるが…

➤ 『靈枢』 營氣編には…

太陰（肺経）から始まり、足厥陰（肝経）に流れ、さらに督脈（任脈）と続き、そこから肺中…手太陰に流れ出る



支別として



# 二十八脈の長さ

・脈度とは

手三陰経脈

各 三尺五寸

手三陽経脈

各 五尺

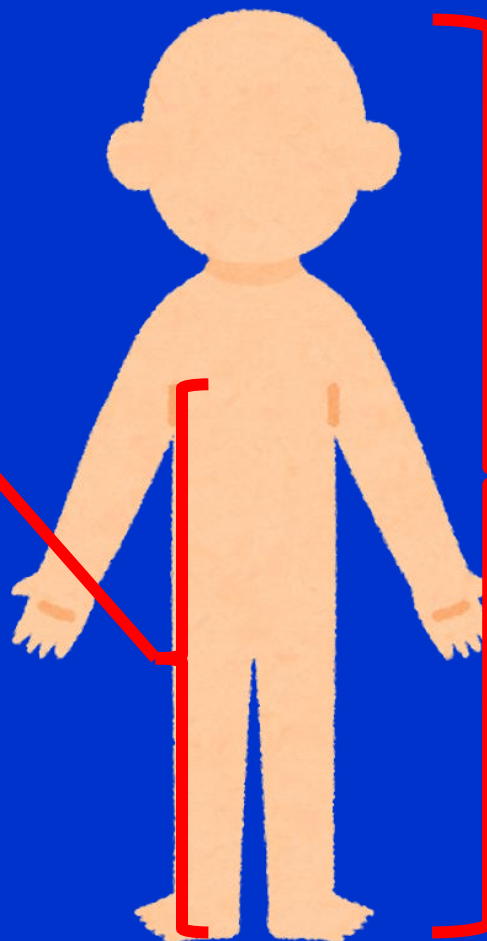
経脈の寸法を知っておくこと

# 二十八脈の長さ

・脈度とは

足三陰経脈

各 六尺五寸



足三陽経脈

各 八尺

経脈の寸法を知っておくこと

# 二十八脈の長さ

・脈度とは

足躺脈

各 七尺五寸

任脈・督脈

各 四尺五寸

経脈の寸法を知っておくこと

# 二十八脈の長さ

- 各経脈の長さを合計すると…

	範囲	各寸法	小計
手三陽経脈	手～頭	五尺	三丈
手三陰経脈	手～胸中	三尺五寸	二丈一尺
足三陽経脈	足～頭	八尺	四丈八尺
足三陰経脈	足～胸中	六尺五寸	三丈九尺
蹻脈	足～目	七尺五寸	一丈五尺
任脈・督脈		四尺五寸	九尺
総計			<b>十六丈二尺</b>

『靈枢』 脈度篇より

# 二十八脈・五十宮への理解

- 二十八脈・五十宮を理解することで…
  - ✓ 経脈治療・営氣鍼法の理解が深まる
- 衛氣・営氣の違いを知らないと…
  - ✓ 自分が何に鍼をしているか分からない
- 時間医学の理解
  - ✓ 生理・病理・治病は時間に影響を受けている

# “理”を解することの大事

知識や技術ではない。理を解することが大事。

➤ “理”を得れば自由になる

☞ 人体における理とは生理学

☞ 疾病における理とは病理学

☞ 鍼治における理とは 術理

➤ 理を求めるために学と術がある



# 初学者が気を付けるべきこと

## 管見に陥らない

- ☞ ツボやテクニックに囚われない  
治療経穴・治療技術・技法

## 師の背中をみる

- 手元ばかりみても得られるものは少ない
- 師の振舞い・姿勢・言葉を観る

# 臨床家が気を付けるべきこと

自分と患者、両方の特性を知る

☞ 自分の気質と患者の気質

術者が衛気・営気のタイプに分けられるように  
患者にも気質の別がある





# 先輩として気を付けるべきこと

教え子の特性をみる



☞ 先達の立場から

- 相手（生徒）の特性を見据えた技術指導
- 自身の観る眼を養うことになる

# 疑問を回収

- 冒頭の問題定義を回収

Q. 1 経脈と絡脈の違いは？

Q. 2 鍼灸師が扱う三氣とは？

Q. 3 営気と衛気の特徴は？

Q. 4 経脈の流注は？

Q. 5 如環無端とは？

# 疑問を回収

- 冒頭の問題定義を回収

A. 1 営氣が流れるのか否か

A. 2 衛氣と営氣と原氣

A. 3 営氣は脈中を行く（二十八脈）  
衛氣は脈外を行く

A. 4 営氣の流れるルートは  
太陰肺經 ~ 厥陰肝經 → 督脈 → 任脈

A. 5 任脈 → 肺中 → 肺經 → 如環無端

# 次なる問題！

• ここまで理解すると、次の問いの答えがわかる！

Q. 1 呼吸補瀉は何の氣に対する鍼法？

Q. 2 井栄兪経合の調整は何の氣に適する？

Q. 3 原氣と衛氣・営氣はどう違うのか？

Q. 4 望診は何の氣を診るのに適する？

Q. 5 脈診と望診、二診合参する意義は？

# ありがとうございました

- ご清聴、ありがとうございました

この発表を機に、  
さらに鍼灸を学ぶ意欲に火が着いたら幸いです。